

# 令和2年度第2回港北高校学校運営協議会（書面開催） 議事録

（令和2年11月30日付資料送付）

## 1 資料

- (1) 令和2年度学校評価中間報告書
- (2) 令和2年度ICTを活用した学習活動に関する教職員対象校内アンケート結果まとめ
- (3) 研究授業に関する学習指導案
- (4) 研究授業風景（DVD 約10分）
- (5) 2年生修学旅行に関する保護者向け資料

## 2 意見及び改善策の提案について

### ○（1）学校評価中間報告書について

コロナ禍の状況の中、1. 教育課程・学習指導について、目標に向かって着実に進めている。  
2. 生徒指導・支援については、いろいろな苦労がある中、新型コロナウイルス感染症に対する生徒の感じ方はそれぞれ異なる。生徒それぞれの個性に応じて個別の指導を行うとともに、敏感に感じている生徒にはメンタル面のサポートをお願いしたい。3. 進路指導 4. 地域連携 5 学校管理・学校運営については、順調に活動が進んでいると判断する。

### （2）教職員へのICTアンケート

コロナ禍の中、ICTの活用が港北高校での教育の質を担保することにつながる。その意味では、「活用している（よく+ある程度活用）」先生方が大多数を占めており、素晴らしい。今後は、全体の平準化（現在使っていない教員へのサポートを通じて全体のレベル向上）の施策が重要である。

### （3）研究授業に関する学習指導案

目標値が明確であり、そこに到達するまでのプロセス（基礎力から表現力の一連の流れ）がよく練られており、問題ない。素晴らしい。

### （4）研究授業動画（DVD）

授業のリアルな風景を確認することができた。Google Classroom等のICTツールを使いながら円滑に運営していることを認識した。

### （5）修学旅行 保護者向け資料

このような状況下なので、保護者に書面で承諾を求めるのはよいことである。Q&Aの資料の内容もわかりやすい。

○今年度はコロナ禍による教育現場の大変さを痛感している。先生方の並々ならぬ苦労により、生徒達が何とか支えられており、この状況がいつ迄続くのか一番気になる所だが、ワクチンが出れば少しは落ち着いて来ると思う。元に戻る迄には相応な期間が必要で、このような時期こそ地域で使える部分が有れば遠慮なく地域を活用してほしい。

資料（1）について。通常の指導が難しい部分を、状況に合わせて工夫し開拓している様子が良く理解できた。生徒達も必死について行こうとする姿勢がうかがえ、有事の中でもそれなりに頑張れる姿が、非常に頼もしく感じた。

資料（2）について。年間通じICT活用の授業は難しく、馴染めない生徒も居る中、先生方の創意工夫により、何とか繋がっているのは大変素晴らしい。

資料（３）について。英語・国語ともに、この難しい時期を乗り越えられる大変内容の充実した力強さを感じた。

資料（４）について。DVDを拝見し、機会があれば是非一度実際に授業を見学したいと思った。

資料（５）について。修学旅行については、この時期大変困難な決断をする事になり、現在港北区でも感染拡大する一方で先が見えてこない状況である。何とか無事に遂行できるとよいが、無理はされない様、願っている。

○今年度はコロナの感染予防のため、時差登校や毎朝の健康観察、先生方には消毒に努めていただいたりと臨機応変かつ時間や労力もかけざるを得ない状況となった。いつも生徒のため、学校のためにご尽力いただきありがたい。

資料を拝見して生徒と先生のみならず、先生方の連携も取れていると思った。また、先生同士の意思統一に努めている様子も感じ取れた。今年度は直接授業風景を拝見することができず残念だったが、授業風景のDVDにより、授業の様子がわかった。

○研究授業DVDの視聴および資料を拝見した。また、1月に延期して、行き先が変更になった修学旅行がまもなく実施される予定だが、この状況下でどうなるのかと心配している。生徒たちの思い出づくりや大切な行事が無事行われることを祈るばかりである。（注：修学旅行は感染拡大のため、中止となった。）

IT化への授業対応についての諸先生方の調査結果や学校評価の中間報告書では、書面以上に対応している教職員のご苦労と葛藤があることを察した。

見えないパンデミックの状況下を過ごす大事な生徒たちの未来に何ができるかを地域の資源としてできうる限りの応援を今年もしていけたらと思っている。

年末には、港北高校の「保育発達コース」の生徒たちが本事業所にボランティアとして訪れ、青いジャージ姿で乳幼児の親子とともに、元気に果敢に関わる姿を見た。生徒たちが、閉じこもりがちな乳幼児と一緒に庭（戸外）で存分に遊んでくれる風景を乳幼児の親たちが目の当たりにして、日常の大事さを感じていた。

○資料についての感想を述べる。

#### ①生徒のキャリア教育について

進路指導の視点で、わが校に受験してくる高校生は、入学願書に高校時代に取り組んだ課題について記載し、多くの高校生は自らが取り組んだ課題探究活動に達成感をもっている。取り組んだテーマによっては、なりたい職業を考えるきっかけにもなっているようである。生徒が個々の力を発見したり、伸ばしたりできる教育活動に力を入れてほしい。

②学年間の縦の関係（1年から3年）をもっとうまく活用することで、生徒の力を伸ばせないか。生徒会・部活などは縦の関係があると思うが、その他の場面でも活用できるといい。縦割りで生徒を見ていくメリットとして、例えば、キャリア教育でICTを活用した作成などは、学年を問わずわかる人がリーダーシップを発揮して、生徒が互いに教えあうことが伸びる力につながると思う。

令和2年度入学生のICT能力は前年度より抜群に高く、プレゼンテーションが上手である。これは、教育力のおかげだと思うが、ICTなくしては仕事ができない社会では、タテ割りで教えあいやリーダーシップの育成は、「生きていく力」につながると思う。

○同窓会として、昨年度周年行事事業として各教室に設置したプロジェクターの活用に大いに興味が

あったので、授業風景のDVDはありがたかった。また、ICTの活用によって黒板の使い方が格段に進歩していて感心した。先生が黒板に書き込む時間と労力の短縮、次々に映し出される画像に生徒の興味と集中力が増し、内容の濃い授業になっていることが見て取れた。スマートフォンの活用方法も素晴らしく、先生とのコミュニケーションの取り方も良いと思った。

職員のICT活用学習活動のアンケートについては、まだまだ環境が整っていないと感じた。「ICTは技術的に難しい」、「活用するきっかけがない」などの先生方の意見は、パソコンやタブレットを使いこなす技術が乏しいからで、これは学んでいただくほかない。独学でやるべきことではなく、先生も生徒も理解度に合わせて技術の向上を図る制度が必要だと思う。これは国の政策レベルの問題だが、学校単位では、なんとか専門家の力を借りてできないものか。IT分野において日本は大きく世界に遅れをとっているので、ICTを教育現場に浸透させるのは時間がかかると思う。

アクティブラーニングの先進校として、まだまだその言葉さえ認知されていないころから港北高校の先生方は努力を重ねて、ゆるぎない信念と向上心で他校を引っ張ってきたことをずっと傍で見してきた。ICT導入に関しても、母校の発展のため惜しみない情熱を傾けていただくよう、卒業生の一人として切にお願いしたい。同窓会として役に立てることがあれば、全力でサポートしたい。